

# 「秋田県の学校における震災後の子どもの 心の状態についてのアンケートについて」

秋田県医師会学校保健委員会

小泉ひろみ(市立秋田総合病院小児科)

根本大輔、水俣健一、大山則昭

秋田県教育庁保健体育課

村上まゆみ



# 『震災後の子どもの心の状態について』のアンケート調査

- 目的) ①震災後の秋田県の子ども心の状態を知る  
②心の問題の症状に改めて、各学校で留意していただく  
③秋田県医師会の「震災後の子どもの心」の相談の窓口が、「精神保健相談事業」の精神科6名であることを各学校へお知らせ

制限) 日本心理臨床学会「心のケアによる二次被害防止ガイドライン」

対象) 秋田県内の学校すべて: 小学校245校、中学校128校、高等学校54校、特別支援学校13校  
回答は、養護教諭

施行時期) 第1回: 平成23年6月、第2回: 平成24年3月

# 震災後の秋田県・ 子どもの心の調査

大災害の時、大人も子どもも恐怖を感じ、一過性のストレス反応はだれでもおこります。しかし、急性ストレス障害や、PTSD（心的外傷後ストレス障害）など心のケアが必要な場合があります。また、被災地に住んでいない場合でも、親戚が巻き込まれたとか、テレビで映像をくりかえし見ただけで、症状をおこすお子さんもいます。今回の調査は、今後の子どもの心のケアを考えるためにおこないますので、よろしくお願いたします。

該当する箇所には○、または記入をお願いします。

1) a 小学校 b 中学校 c 高等学校 d. 特別支援学校

2) 全校児童生徒は何人ですか? ( )名

3) 被災地、避難勧告地域などからいらしたお子さんはいますか?  
a いいえ b はい 「はい」の場合、( )名

下記は、日本小児精神学研究会より配布されたリーフレットから許可を得て引用した、「急性ストレス障害」や「PTSD」の症状です。

- ・表情が少なく、ぼーっとしていることが多い。
- ・口数がへる。話をしなくなったり、必要以上におびえている。
- ・少しのことで興奮しやすい。または突然興奮したり、パニック状態になる。
- ・話題が急に変わったり、つじつまがあわなかったりし、突然人が変わったようになり、現実でないことを言い出す。
- ・そわそわして落ち着きがなくなり、少しの刺激でも過敏に強く反応する。
- ・吐き気や腹痛、めまい、息苦しさ、頭痛、頻尿など身体症状を強く訴える。

4) 震災後まもなく、上記のような症状をおこした児童生徒や、同様の症状がもともとあった場合はそれが悪化した児童生徒はいましたか?

a いなかった b いた いた場合は何人くらいでしたか? ( )名くらい  
いた場合、その中に被災地などからいらした児童生徒は何人でしたか? ( )名くらい

5) それらの児童生徒で、医師やカウンセラーに相談された方たちはいましたか?

a いなかった b いた いた場合は何人くらいでしたか? ( )名くらい  
いた場合、その中に被災地などからいらした児童生徒は何人でしたか? ( )名くらい

6) 現在震災後3ヵ月を経過しましたが、上記の症状をおこしている(悪化している)児童生徒はいますか?

a いない b いる いる場合は何人くらいですか? ( )名くらい  
いる場合、その中に被災地などからいらした児童生徒は何人ですか? ( )名くらい

7) 上記のような症状をおこした児童生徒や、現在症状をおこしている児童生徒に関して、先生が困ったことなどは、ありましたか? また、今後、相談する体制など、希望されることはありますか? (自由記載)

お忙しい中での記入、ありがとうございました。集計の都合などもあり、誠に恐れ入りますが、7月4日までに提出して下さるようお願い申し上げます。

# アンケート質問内容

- ①学校種
- ②全児童生徒数
- ③被災地より来ている児童生徒数
- ④急性ストレス障害やPTSDと思われる症状を呈している児童生徒数
- ⑤医師に相談または受診した数
- ⑥それ以外の対応方法
- ⑦(第2回のみ)症状のある児童生徒が、震災前から心理的な問題を持つ場合や不登校であったかどうか

第1回の調査(平成23年6月):震災直後の様子、3ヵ月後の様子

第2回の調査(平成24年3月):震災1年後の様子

# 「症状」の内容について

(日本小児精神神経学研究会が配布していたリーフレットより)

1. 表情が少なくぼーっとしていることが多い
2. 口数が減る、話をしなくなったり必要以上におびえている
3. 少しのことで興奮しやすい、または突然興奮したりパニック状態になる
4. 話題が急に変わったり、つじつまがあわなかったりし、突然人が変わったようになり、現実でないことを言い出す
5. そわそわして落ち着きがなくなり、少しの刺激でも過敏に反応する
6. 吐き気や腹痛、めまい、息苦しさ、頭痛、頻尿などの身体症状を訴える

# アンケート調査協力学校

主に養護の先生に回答いただきました。

## 第1回

小学校	240校(245校中98%)	在校50,777人
中学校	125校(128校中98%)	27,355人
高等学校	54校(56校中96%)	24,714人
特別支援校	10校(13校中78%)	1,056人

## 第2回

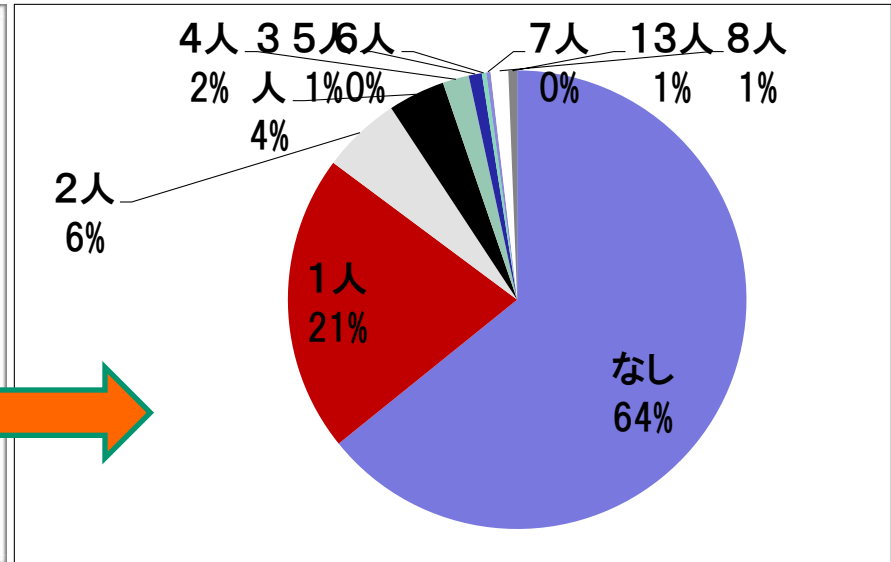
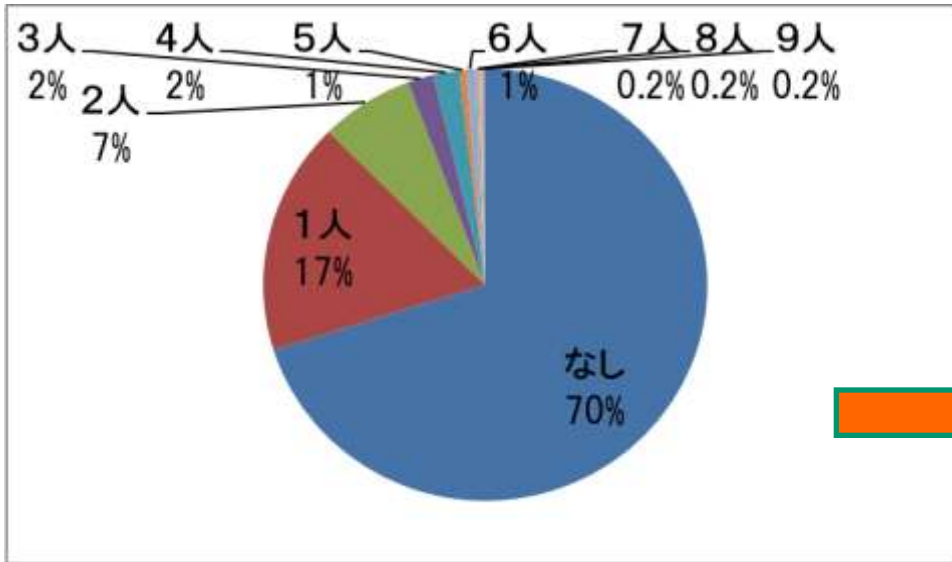
小学校	243校(245校中99%)	在校50,733人
中学校	126校(128校中98%)	28,042人
高等学校	59校(60校中98%)	26,261人
特別支援校	13校(13校中100%)	1,179人

# 被災地からの児童生徒

学校数

平成23年6月

平成24年3月

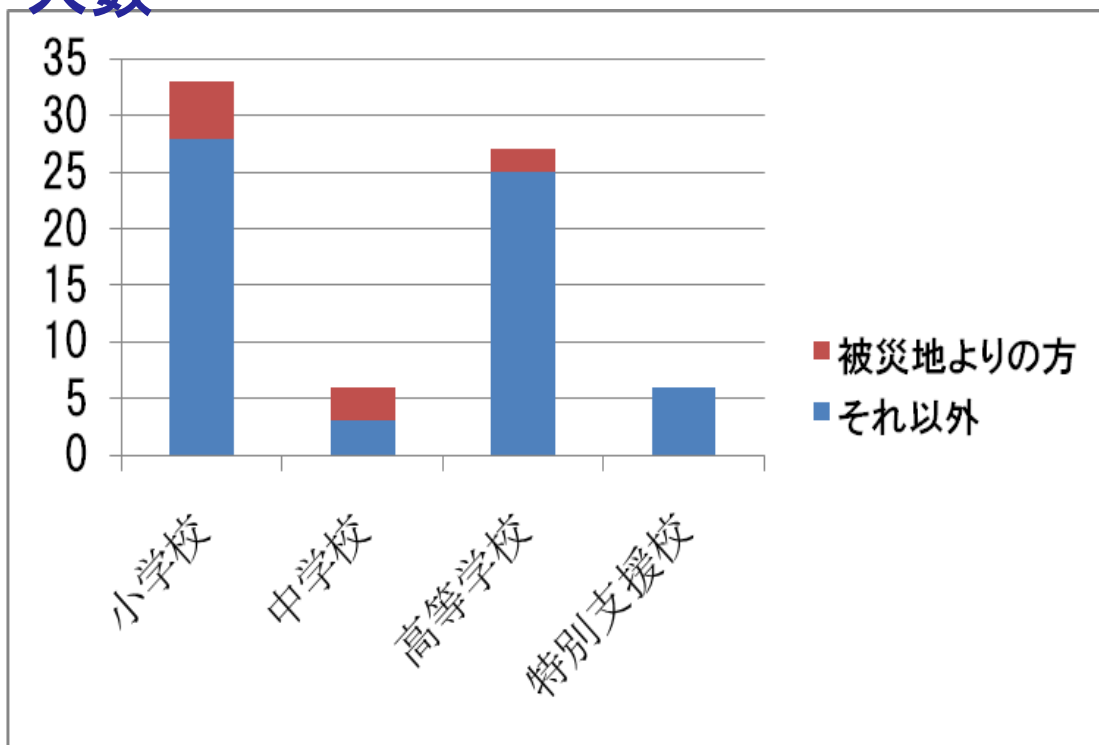


児童生徒数

小学校:176人	→	197人	21人↑
中学校:45人	→	39人	6人↓
高等学校:13人	→	17人	4人↑
特別支援校:6人	→	4人	2人↓
合計:240人	→	257人	17人↑

# 震災後まもなくの時点で症状のあった児童生徒

## 人数

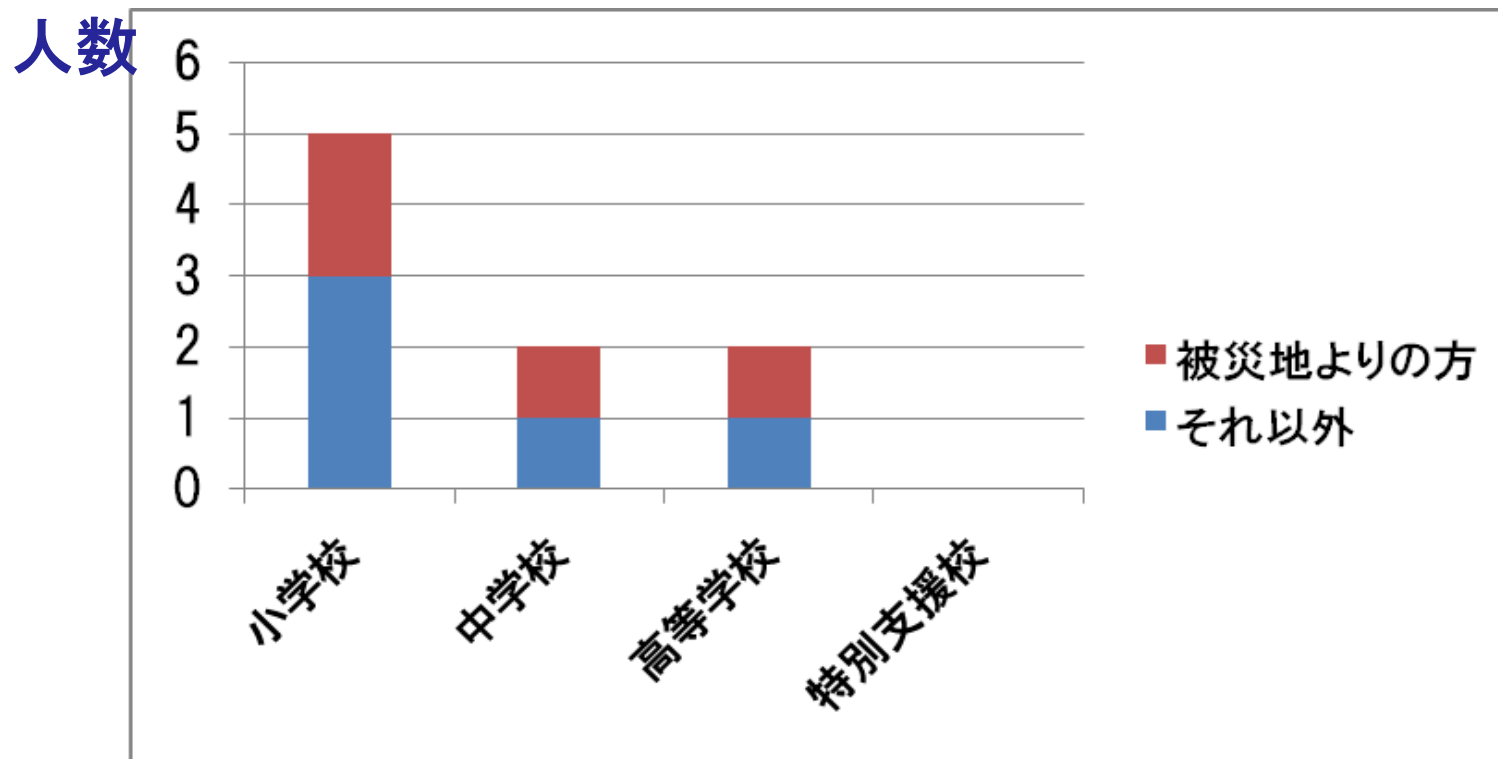


## 学校数

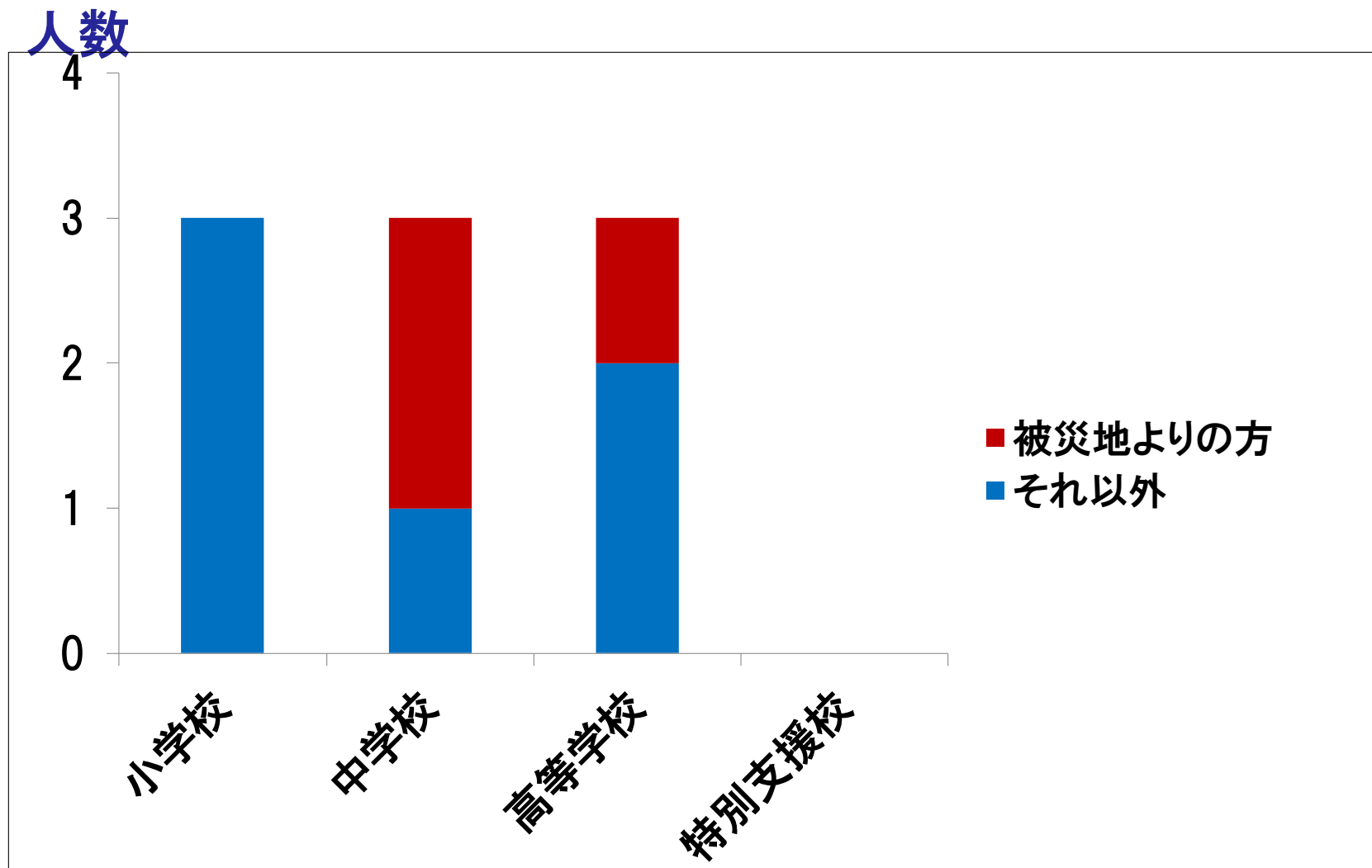




## 3ヵ月後の時点で症状のあった児童生徒



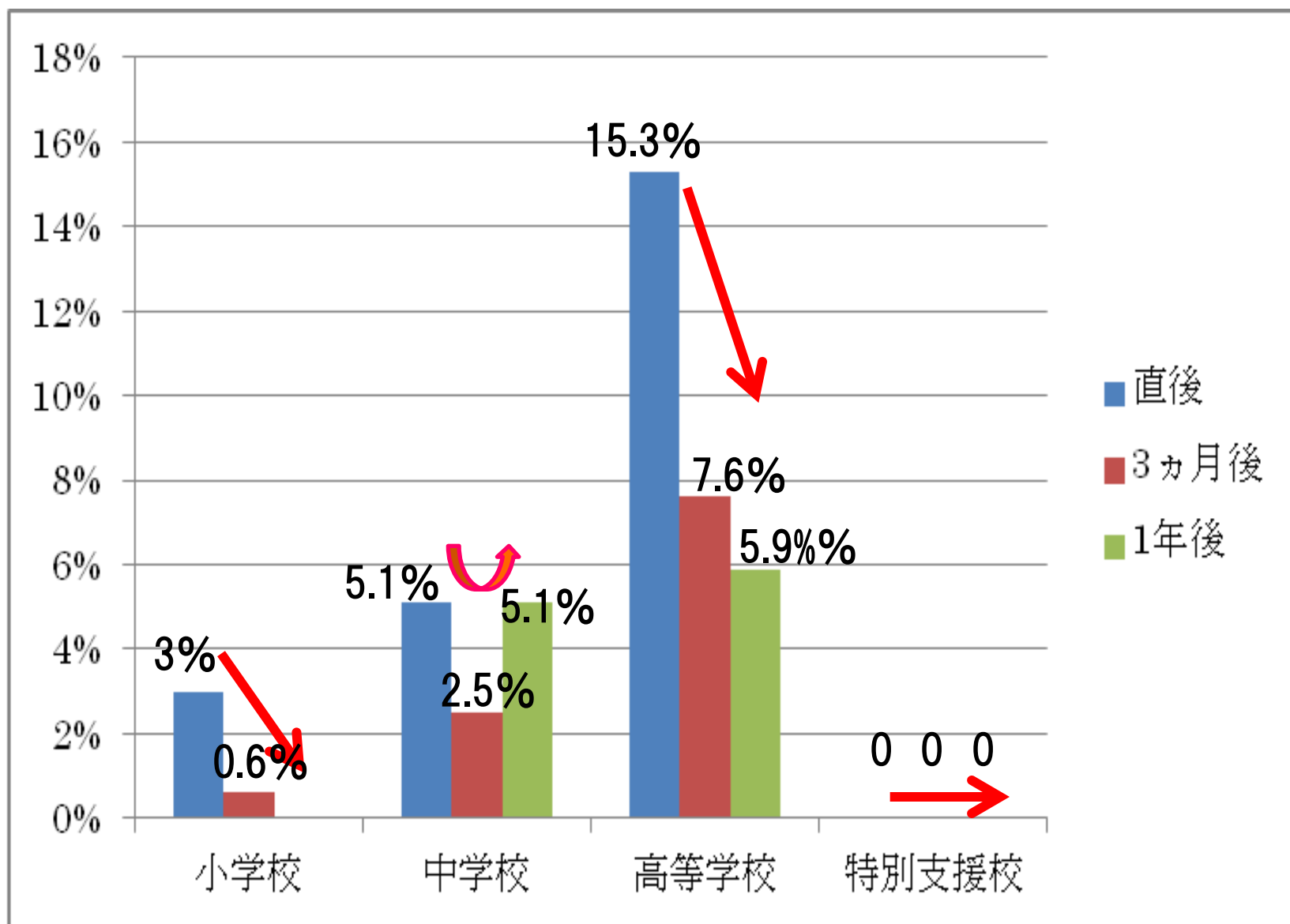
# 1年後の時点で症状のあった児童生徒



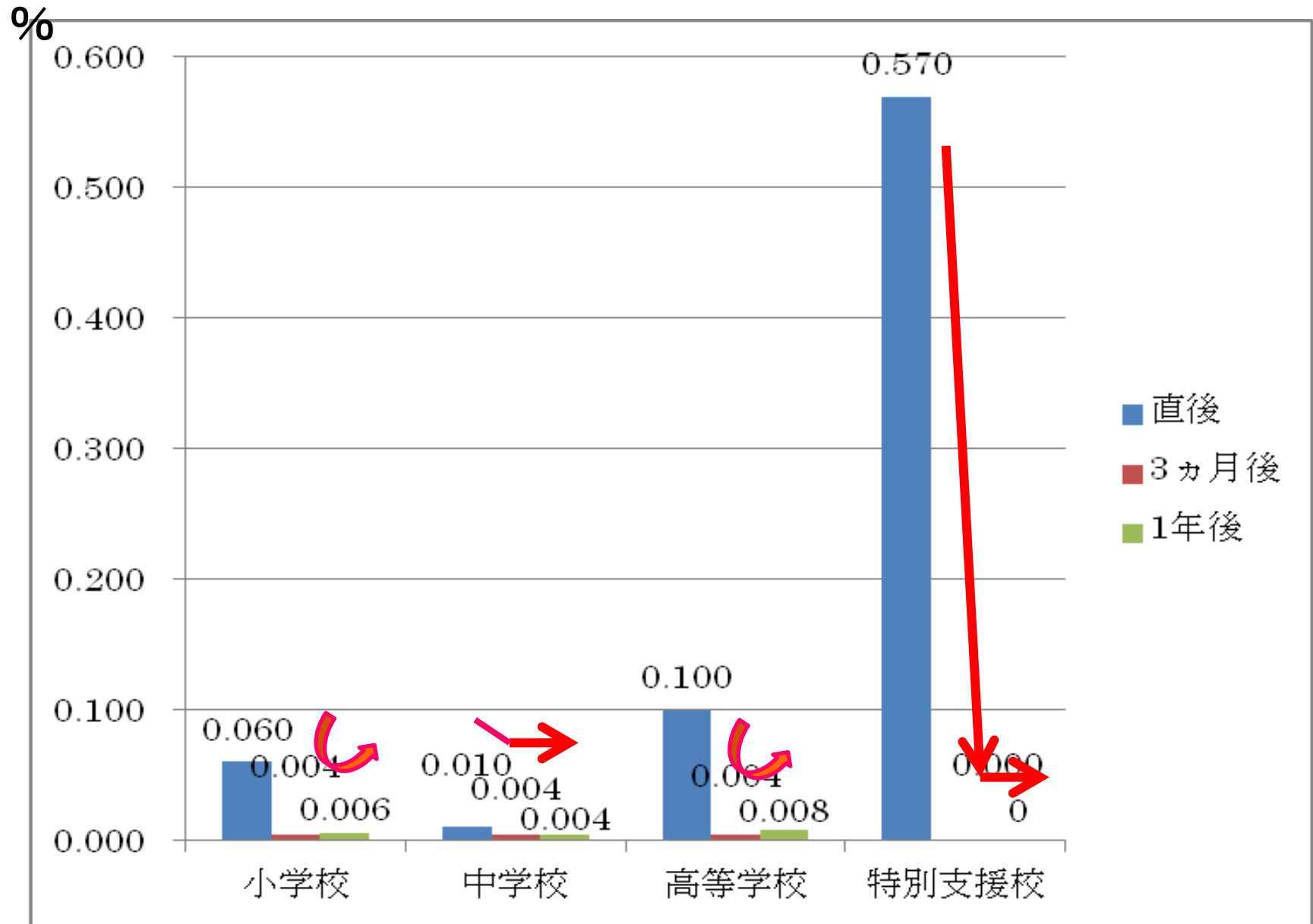
# 症状のあった児童生徒の割合

	被災地よりの児童生徒			以前からの秋田在住者		
	直後	3ヵ月後	1年後	直後	3ヵ月後	1年後
小学校	3%	0.6%	0	0.06%	0.004%	0.006%
中学校	5.1%	2.5%	5.1%	0.01%	0.004%	0.004%
高等学校	15.3%	7.6%	5.9%	0.1%	0.004%	0.008%
特別支援学校	0	0	0	0.57%	0	0

# 被災地よりの児童生徒で症状のあった割合

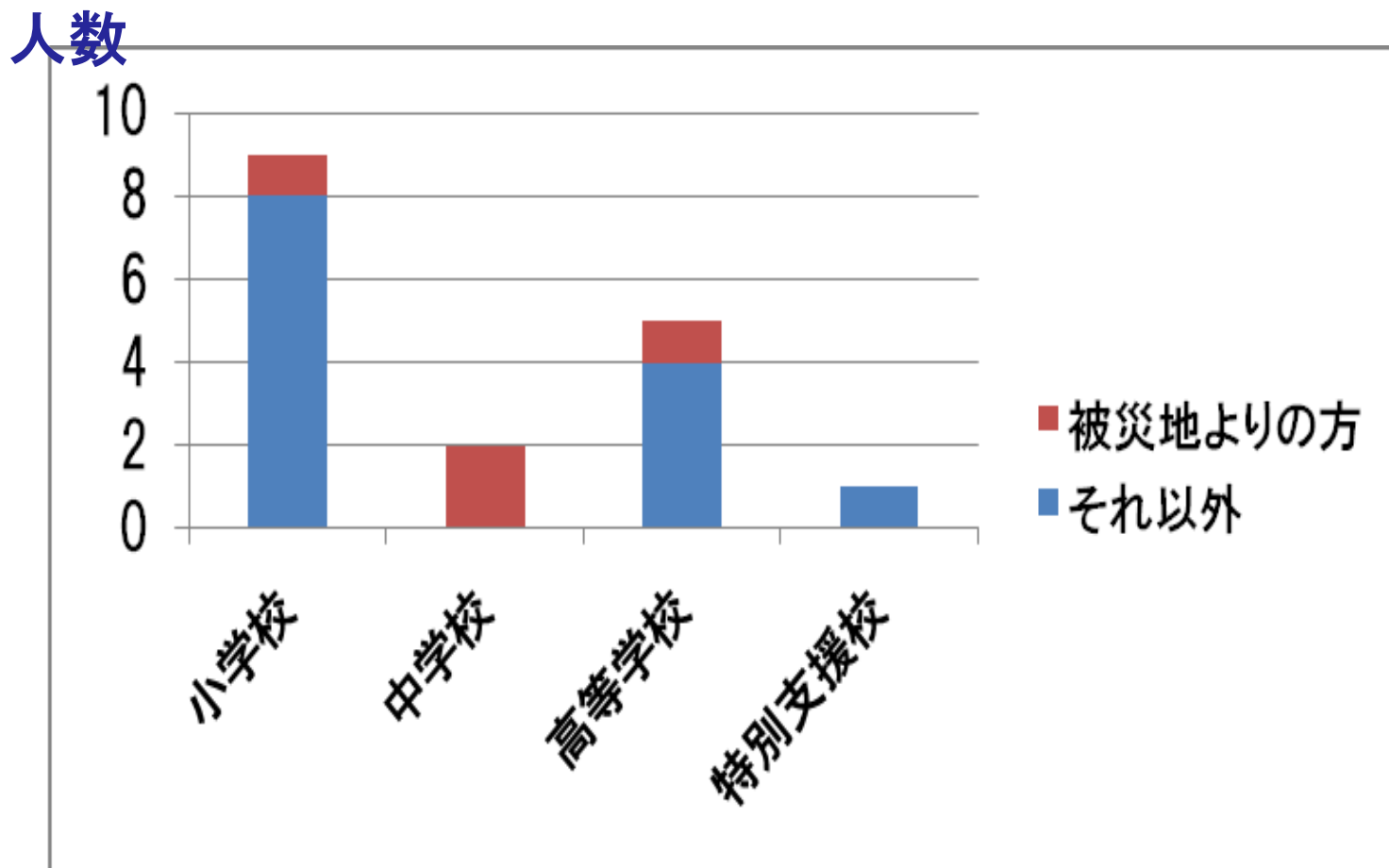


# 以前から秋田県在住の児童生徒で症状のあった割合



# 医師やカウンセラーに相談した人数

(第1回:平成23年6月)



# 震災1年後症状のあった児童生徒への対応

(第2回:平成24年3月)

震災1年後、症状のあった9人中

医師に相談または受診… 中学生の1人

その他の8人

小学校…学校の教職員で対応 1人

学校の教職員とスクールカウンセラーが対応 2人

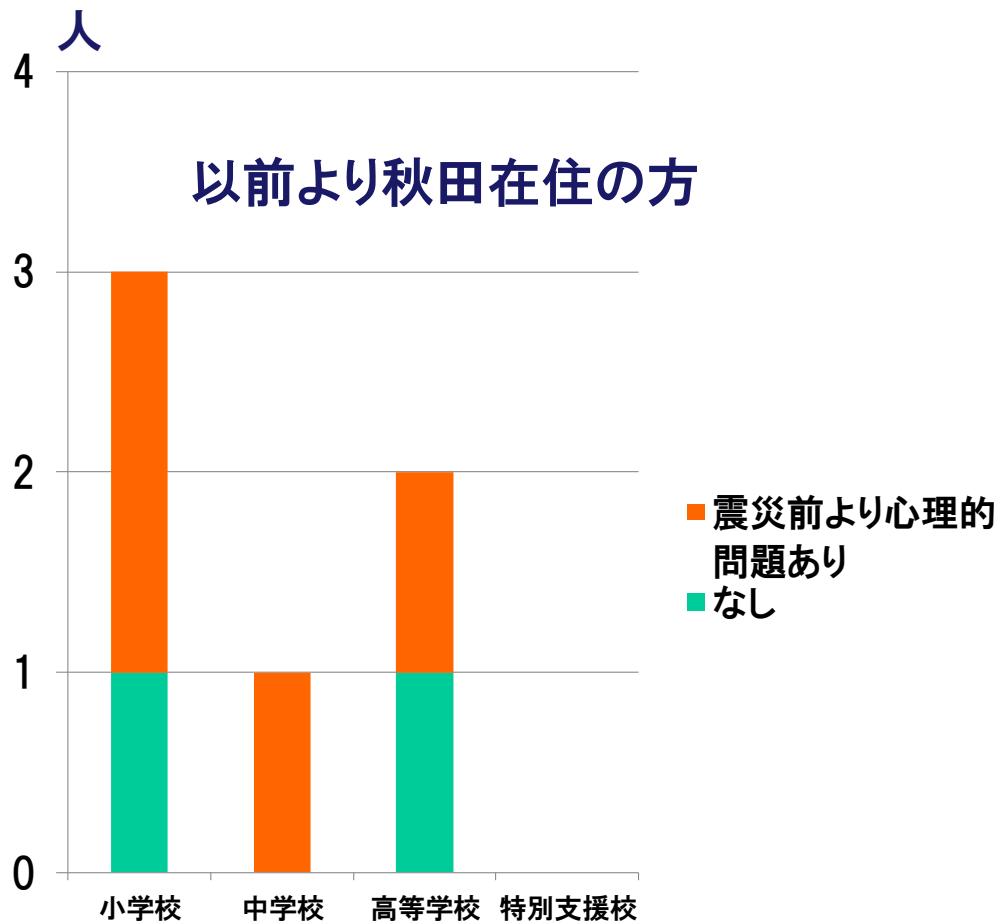
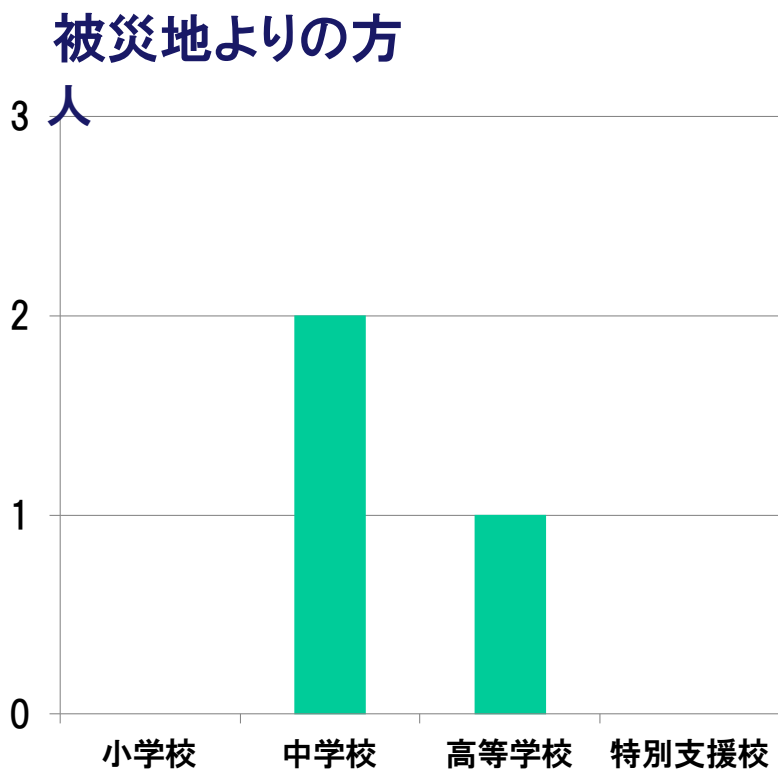
中学校…学校の教職員とスクールカウンセラーが対応 2人

高等学校…学校の教職員が対応 1人

学校の教職員とスクールカウンセラーが対応 1人

記載なし 1人

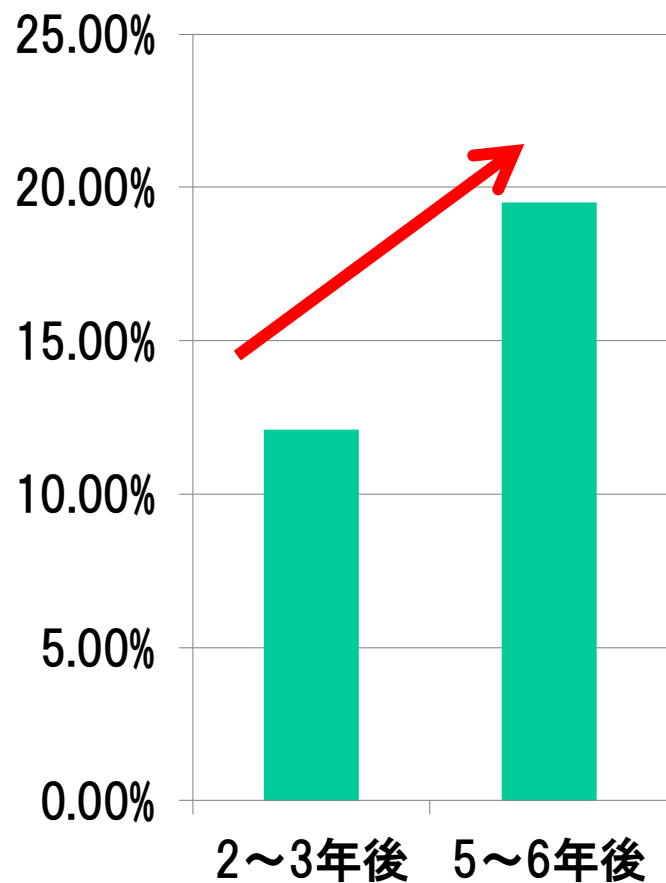
# 震災1年後、症状のあった児童生徒のうち以前より心理的な問題をかかえていた方



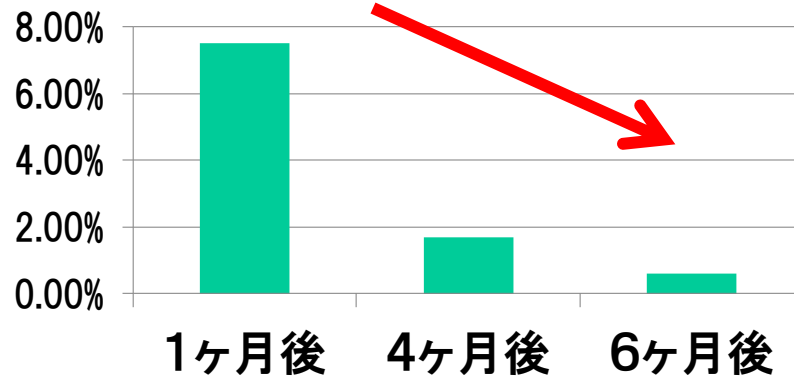


# ニューヨーク貿易センタービル攻撃(2001.9.11) PTSD症状のあった例

## 直接の被害者、救助にあたった人



## TVなどの間接的トラウマ のみの一般の人



# 思春期以下の場合に間接的なトラウマの暴露でのPTSD うつ、自殺念慮（2008年中国四川省大地震）

## 関係した因子

- ・地震前からメンタルに大きな問題を持っていた
- ・休校になっていないのに欠席した
- ・被災地を訪れた
- ・地震のニュースを見て3回以上泣いた
- ・怖い内容の地震のニュースをしばしば見た
- ・地震前に体罰を体験していた
- ・地震前に肉親の死を経験していた
- ・両親が被災地を訪れた

## 保護的に働いた因子

- ・社会的なサポート
- ・教師よりの与えられた安全の感覚
- ・仲間からの支え合いの感覚
- ・地震後の1週間に両親と一緒にいた
- ・心にひびく内容のニュースをしばしば見た
- ・勇気づけられる内容のニュースをしばしば見た

直接的なトラウマ



被災地よりの児童生徒



PTSDが増えてくる時期？  
より重い症例が出てくる？

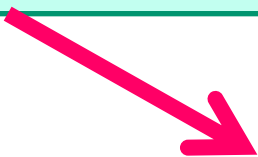
間接的なトラウマ



もともと秋田に在住



もともとの「傷つきやすさ」  
震災前の精神的状態が関与



専門的な診察が必要な時期になってきている



秋田県精神保健相談医(6名)をもっと活用してもらおう

さらに、不登校の状態であり、アンケートの対象にもなっていない子供たちってとても危ない状態ではなかったのか？⇒どうするか？

(案)

秋医発第〇〇号  
平成 23 年 月 日

学校長 殿

秋田県医師会会長  
小山田 雍

『震災後の子どもの心』に関する相談について

平素、本会の活動に対しまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。去る 3 月 11 日に発生いたしました東日本大震災後、子どもの心への影響が危惧される場所ですが、各学校では様々に対応していただいていることと存じます。秋田県医師会では、平成 23 年 7 月、県教育庁と一緒に、別添のようなアンケートをおこなわせていただきました。結果を同封いたしますが、秋田県の児童生徒の中にも、震災後に様々の症状を呈した方がいたことがわかりました。また各学校では、スクールカウンセラーや、学校医、今回震災後の対応として設置された緊急スクールカウンセラー制度を利用して対応していただいた様子がわかりました。

PTSD の専門家の先生方のお話では、震災後半年を過ぎてから PTSD の症状を出すお子さんが増えるということです。そのため、学校現場ではこれからさらに子ども達への心配りが必要になってくるのではないかと考えております。秋田県医師会では、県教育庁よりの依頼で『精神保健相談事業』をおこなっております。ふだんから学校における児童生徒の精神の相談を県内 6 名の精神科が受けておりますが、『震災後の子どもの心の相談』においても、同事業の精神科相談医が受ける体制でおります。相談方法は、添付します要綱をご覧ください。

なお、相談体制を改善していくために今後もアンケートをおこなわせていただきたいと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。

また、12 月 3 日（土）開催の秋田県学校医・学校保健研究会並びに精神保健研修会では、震災と子どもの心のケアにお詳しい武蔵野大学人間関係学部教授の藤森和美先生にご講演いただく予定です。ご参加いただけます。

担当常任理事 小泉ひろみ

〒010-0874 秋田市千秋久保田町 6-6

(社) 秋田県医師会

事務局担当 鈴木裕美子

TEL : 018-833-7401, FAX : 018-832-1356

E-mail : info@akita.med.or.jp

## まとめ

1. 震災後の秋田県の児童生徒の心に関するアンケートをおこなった。
2. 被災地よりの児童生徒では、震災以前から秋田に住んでいる者より高い率でPTSD様の症状をおこし、震災3カ月後には、小中学校、高校で減少したが、1年後には中学生で増加した。
3. 以前からの秋田在住者でも、割合はすくないものの、症状を呈した児童生徒がおり、その中に震災以前から心理的な問題をかかえていた者が含まれていた。
4. 専門的に対応していく必要がある時期に入っていると考えている。